

まんが 診療所

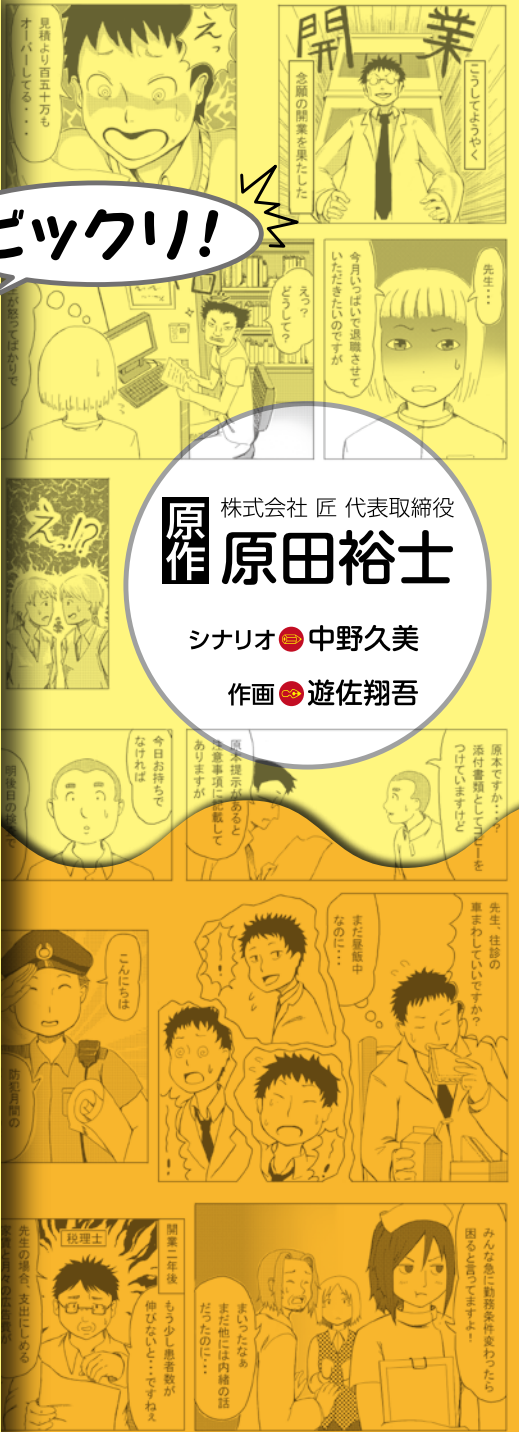
しまった!

ビックリ!

デコ

ボコ

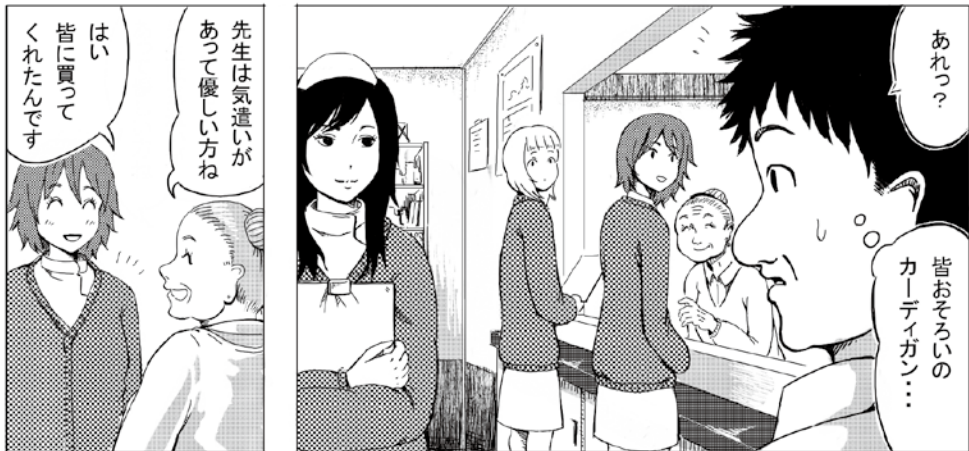
ばなし



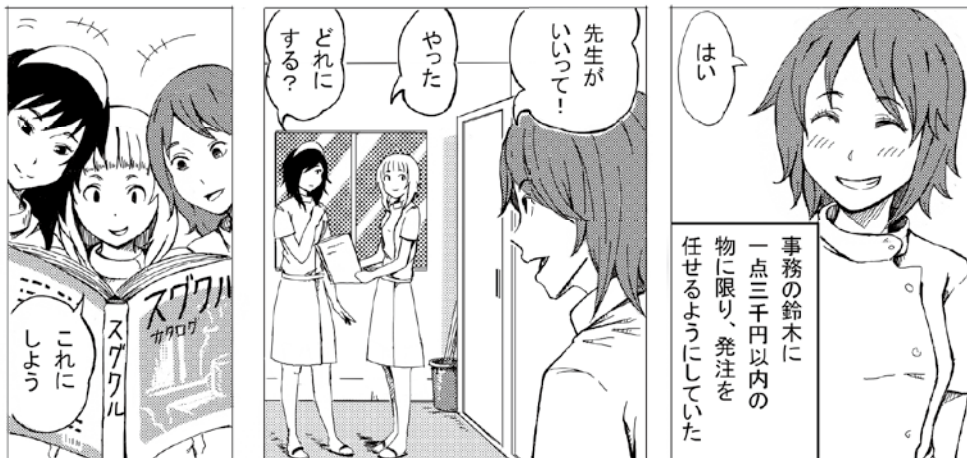
株式会社 匠 代表取締役
原作 原田裕士

シナリオ 中野久美

作画 遊佐翔吾

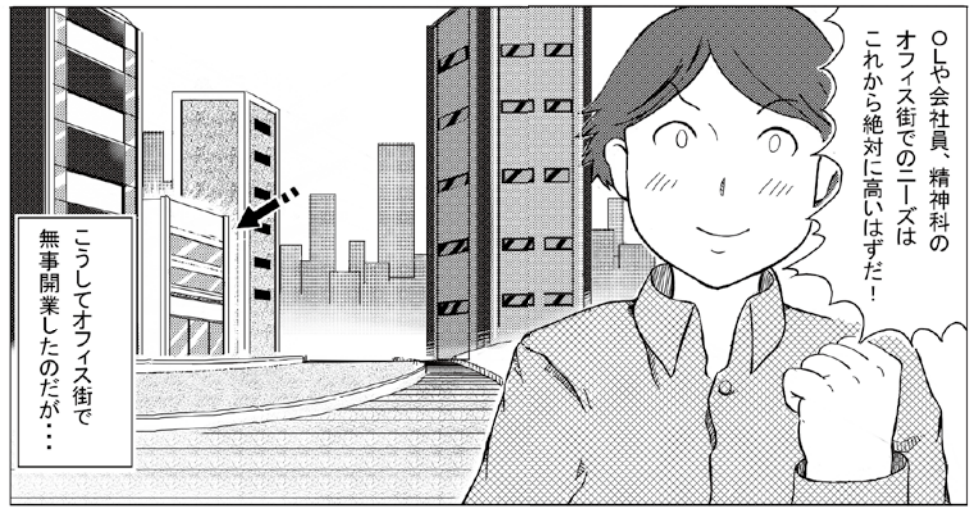
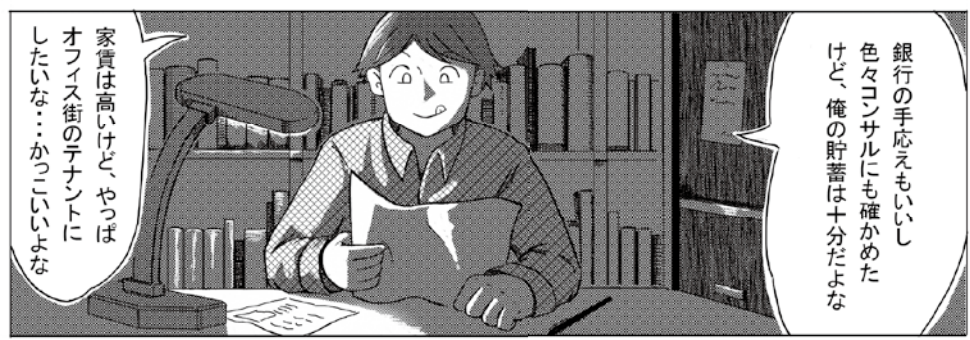


◎こんな「ビックリ！」にならないために
「職員には小さなことでも「報告徹底」
させよう。
このストーリーは、信頼できる職員とは
いえ、購買の「権限を一任」させてしまっ
たことが問題。
院長は診療以外にも多くの雑務に追われ
るものだ。細かい物品購入くらい任せて
しまいたい気持ちもわかる。
しかし、小さな誤解はいらぬ不信感を持
つきっかけとなる。それを防ぐには、小
さなことでも「報告」を欠かさず、風通
しの良い関係にしておくこと。
「以前は良い職員だった」「信頼してく
れている」と思った「どうしてあんな勝
手を…」何か人間関係の問題が起こつ
たときの相談で聞く言葉だ。「言わなく
てもわかるだろう」なんて考えないで欲
しい。職場であればこそ避けたい些細な
「誤解」、それには「報告徹底」が不可欠
だ。





◎こんな「しまった!」にならないために
 開業場所としてオフィス街を選ぶに当たっては十分な戦略が必要だ。
 オフィス街での開業は患者受療予測が非常に難しい。基本的に仕事場へは元気で働きに来ている人のほうが多く、大企業の中には社内診療所を併設しているところもあり、患者発生率が低いと言える。その上、テナント料、駅看板などの周辺の広告費などランニングコストが住宅地に比べて割高であることも多い。
 つまり、綿密な開業計画、余裕ある運転資金を確保してスタートしないと、後から慌てることになる。
 しかし、診療科目によってはオフィス街でもニーズがあるので、適正な賃料でのテナント選び、タイミングや患者ターゲットにあった広告戦略、偏りがちな受診時間を予約制にする工夫など、一般的な住宅地での開業とは違う視点で準備を進めると良いだろう。



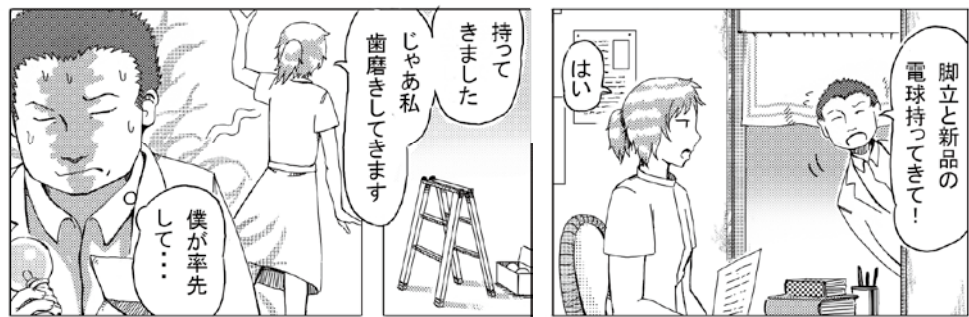
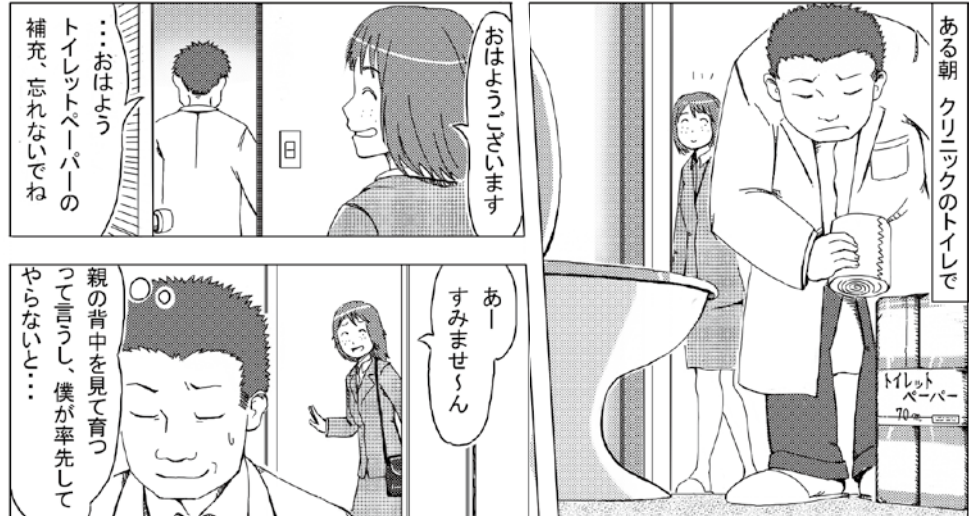


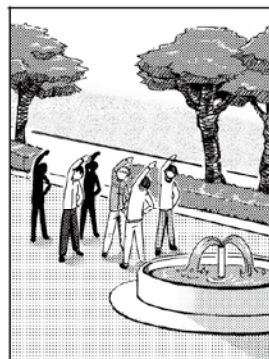
◎こんな「ビックリ!」にならないために

ここまで気が利かない職員ばかりがそろっている診療所はめずらしいかもしれないが、「なんで私がここまでやるのか」「どうして君達(職員)は気づかないのか!」と思ったことがある院長は少なくともいいのではないだろうか。

院長からの相談を受けて職員面談すると、怠慢というわけでなく、まったく悪気が無く気づかないだけだったりする。「いったい何処の星から来たのだろうか?」と彼らとの感覚の違いに驚くこともしばしばだ。

異星人のような職員を雇用してしまった時はどうすればいいのか。根気よく院長自ら率先して模範を見せるのもよいが、患者への接遇研修をはじめ、社会人としてのマナー研修も開き、啓蒙していくことのほうが得策だろう。今の時代には、経営者(院長)は従業員(職員)に対し「育てる」という覚悟で接する必要があると言える。





◎こんな「しまった!」にならないために
 職員や患者とのプライベートな付き合いには、なるべく一線を設けておこう。
 宗教・政治はタブーな話であるが、ストーリーのような話をたまに聞くことがあるので取り上げた。
 何を信じるか、何を支持するかは個人の自由であり、職員を採用するときであっても、よほどの強烈的な信者や支持者でない限りは採用可否の理由とすることもないであろう。
 ただ、診療所内外ともに診療所に関わる人々への「勧誘」という行為だけは如何なる理由があっても認めないようにはしておかなければならない。
 そのためには就業規則や規約を作り雇用契約時に提示するしかない。非常に難しいデリケートな問題なので、その内容に関しては、弁護士、社会保険労務士、コンサルタントなどの専門家に相談するとよいであろう。